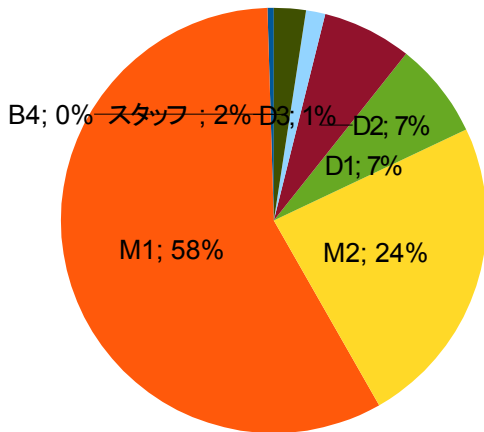


第42回 天文天体物理若手 夏の学校 アンケート集計結果・講評

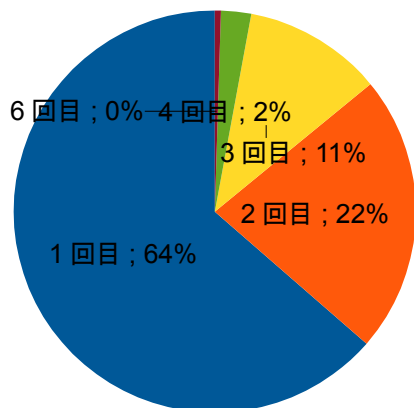
集計：集録係
講評：林 航平

<1、夏の学校全般について>

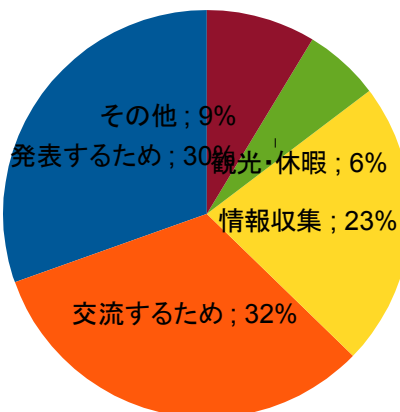
Q1.1 あなたの学年は？



Q1.2 夏の学校に参加したのは何回目ですか？



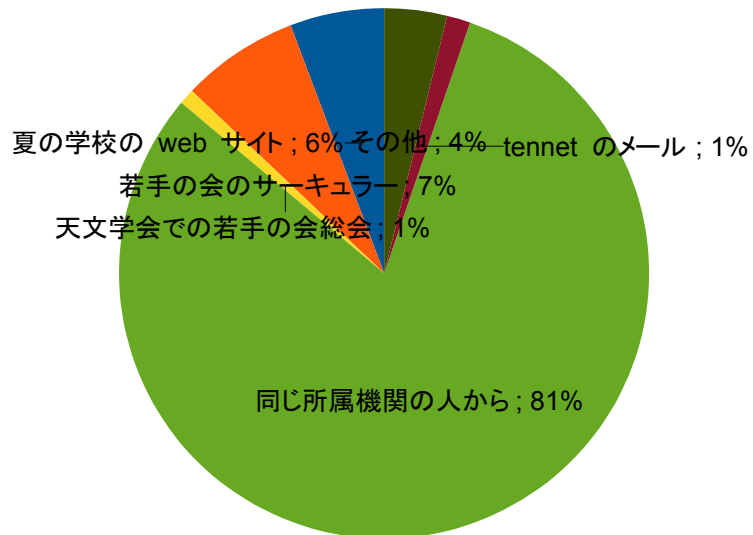
1.3 夏の学校に参加した理由をお選びください
(複数回答可)



(その他)

- ・事務局員だから×16
- ・スタッフだから×4
- ・座長だから×4
- ・仕事×2
- ・運営
- ・強制的に
- ・研究室の義務
- ・校長だから！
- ・座長からのメール
- ・担当教官に勧められ
- ・勉強

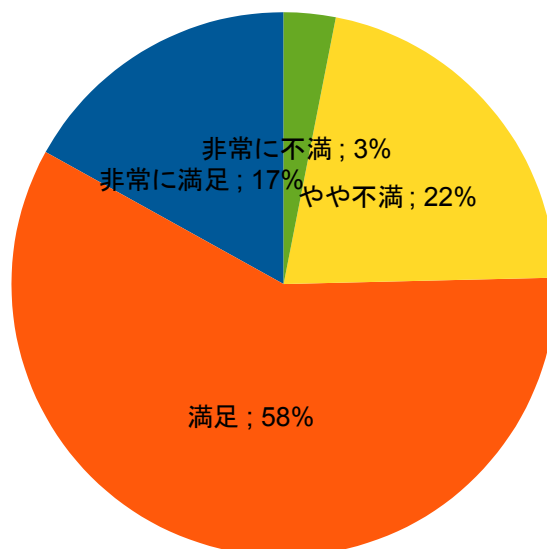
Q1.4 夏の学校の情報はどこで初めて知りましたか？



(その他)

- ・他大学の学生から×2
- ・記憶していない
- ・研究室で
- ・事務局業務
- ・他機関の先輩
- ・内部情報
- ・友人から

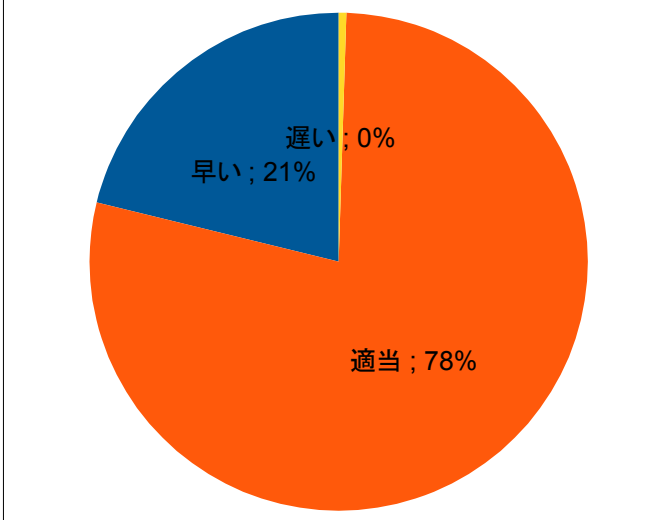
Q1.5 夏の学校事務局からの事前の案内や対応は適切でしたか？



Q1.5 (理由)

- ・連絡が遅い×7
- ・参加費振込についての連絡が遅い×6
- ・発表順日程の公開が遅い×5
- ・HP の情報が少し遅い
- ・LAN 環境の情報不足
- ・お金に関わる全ての連絡が直前すぎる
- ・スケジュールの確定が遅く現地到着時刻を設定しづらかった
- ・てきぱき動いていただきました
- ・ホテル備品情報の不足
- ・メールアドレス紛失問題
- ・メールなどよい
- ・メール連絡の対応が良かった
- ・レジスト時に含むべき内容の精査
- ・案内の方法がメールスだったりだれか一人に
- ・案内等が散らばっていて若干わかりにくい
- ・運営サポートのための資料がメールできたのが金曜日の夜(27日)だから
- ・何が重要なかわからない
- ・何を聞いても把握してる人が少ない
- ・会場到着後の案内が不足
- ・参加費振込の方法が不明瞭(説明不足)
- ・事前の案内はギリギリであることが多いと感じたが、当日の対応はとても丁寧で嬉しかった
- ・事前集録提出制の告知の遅れ
- ・事務局員なので事情がわかる
- ・集録締め切り時の対応が悪い
- ・重要な連絡が期限の直前にあった
- ・情報量が少ない
- ・全般的にわかりにくい、特に金銭面について
- ・締切が早い
- ・途中参加が考慮されていなかった
- ・特に困ったこともなかったため
- ・特に集録のテンプレート公開が遅い
- ・補助についてよく分からなかった
- ・問い合わせの対応は迅速
- ・メールの内容が不十分

Q1.6 開催時期 (7/29-8/1) は適当でしたか？



Q1.6 (理由)

- ・レポート提出時期と重なる×10
- ・授業と重なる×8
- ・期末試験との重複×8
- ・期末試験直後だった×4
- ・夏休みは8月×2
- ・TAとかぶる
- ・たまたまヒマだったから
- ・もっと遅くて良い

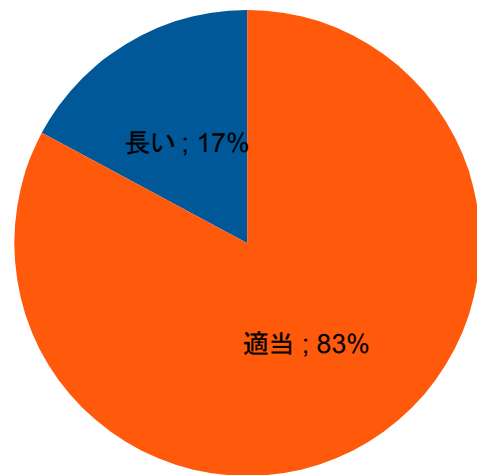
- ・学会に近くない
- ・学会の準備とは重複しない
- ・学会の練習になる
- ・8月初旬がよい
- ・暑い
- ・私用で忙しい

<講評>

多くの参加者の方が、同じ所属機関の人から夏の学校の情報を教えてもらっているようです。夏の学校が天文・天体物理の若手に根付いているようで何よりです。また、情報収集や他大学・多分野の交流など研究活動の1つとして参加されている方が多く、夏の学校がそのような場として有益に活用されて大変光栄です。

今年度は、集録の事前提出など様々な変更点があったにもかかわらず、情報の公開や連絡の遅れが多々あり、参加者の皆様にご迷惑をおかけしたこと大変申し訳ございませんでした。この反省点は来年度へしっかり引き継ぎます。

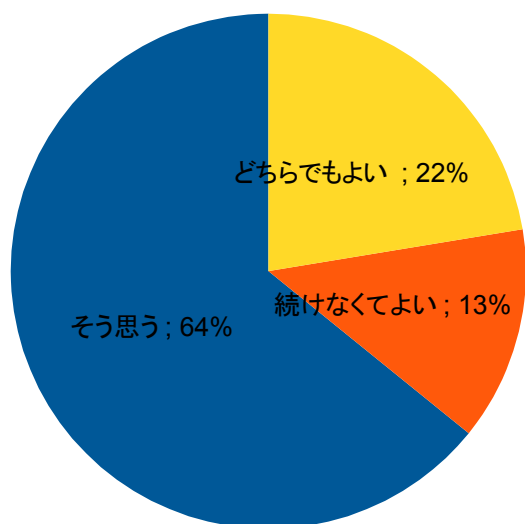
Q1.7 開催日数 (3泊4日) は適当でしたか？



Q1.7 (理由)

- ・疲れた、しんどい×3
- ・(1日あたりの発表(講演)の数から)2泊3日が望ましい×2
- ・宿泊費がかさむし高い×2
- ・4h泊は長く、2泊は短い
- ・凝縮すれば良い
- ・研究する時間がとれなくなってしまったため
- ・合宿にもっとも必要な日数であるから
- ・合宿形式なので excursion の時間も欲しい
- ・私用で忙しい
- ・集中力が持続する丁度良い期間
- ・他のセッションが見られる
- ・丁度良かった
- ・発表は1日で済むので
- ・疲労で発表を聴くところではない
- ・分科会数が妥当
- ・無駄が多い
- ・例年より発表者が少ないのに同じ日数は長い

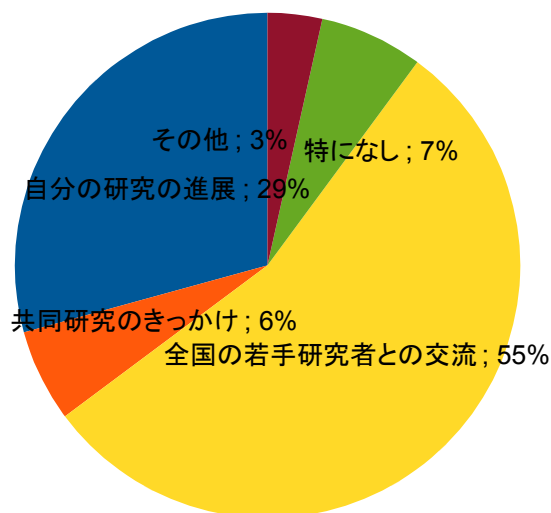
合宿形式は今後も続けたほうが良いと思います



Q1.8 (理由)

- ・交流が深まる×15
- ・ためになっていると思えなかった×6
- ・夜の分科会×4
- ・楽しい×3
- ・事務局の運営負担大×3
- ・面倒×2
- ・夏の学校のメリット×2
- ・宿泊費が高い×2
- ・学会との差別化×2
- ・知り合いができた×2
- ・それが夏の学校の意義だから
- ・それぞれに良さはあるから
- ・ある程度「拘束」されるので、意欲的に参加できる
- ・もし近場での開催なら泊まるまでもない
- ・衣食住を共にするのは議論の場として良い
- ・会場選択の問題、アクセスの不便さ
- ・各自の都合に合わせて参加できるため
- ・休みながら参加できる
- ・合宿形式のほうが話し合える
- ・参加人数が多く、議論に時間がかかる
- ・四日間一緒に過ごしたことで良くも悪くも交流が深まったから
- ・集中して行える
- ・宿泊費の都合を調整できるから
- ・寝る時一人希望
- ・安い宿を自分で手配したいぐらいだ！
- ・親交を深めるのが目的なら必須
- ・続けないほうが事務局の負担が減るが、それだとアピールポイントが減る(予算の面で)
- ・他の研究会にない一体感が生まれる
- ・他の所属の人と交流するのに良い形式だと思うから
- ・他研究会との差別化を図るため
- ・日数削減で運営負担を減らすべき
- ・発表だけなら不要
- ・負担が多いなら、わざわざしなくてもは、思う
- ・補助金申請の時に有意と聞いたから
- ・密度が濃くなる
- ・夜の分科会も結局知り合いで固まる。宴会は参加者任せで良い。基研への申請は、若手中心であることを売りにすれば良いのでは。

Q1.9 今回の夏の学校への参加は、あなたにとってどのような意義がありましたか？



(その他)

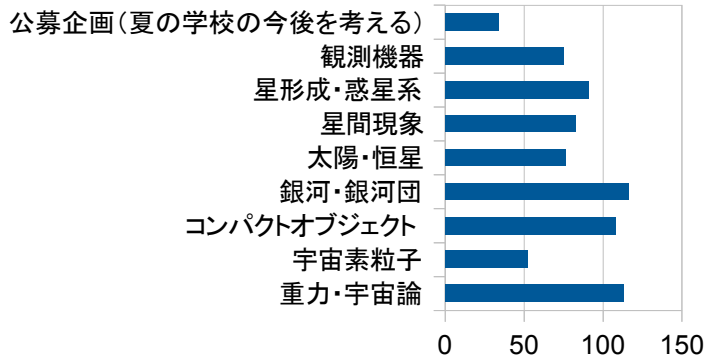
- ・運営×4
- ・モチベーションが上がった×3
- ・自分の立ち位置の確認
- ・他分野の進展を概観できる
- ・他分野への関心の拡大

<講評>

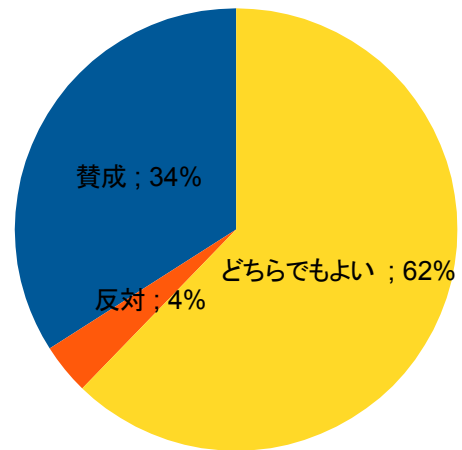
開催時期・開催日数については概ね適当のようです。一方で合宿形式を続けなくて良いと答えた方の割合が、昨年度よりも増加しています。この結果は、公募企画で「事務局の負担増加」を取り上げたことで夏の学校運営とその負担について理解が深まったことも影響しているかもしれません。合宿形式に関しては例年議論になっていますが、今後もより良い夏の学校に向けて議論して行く必要があると思います。

< 2、全体企画・分科会について >

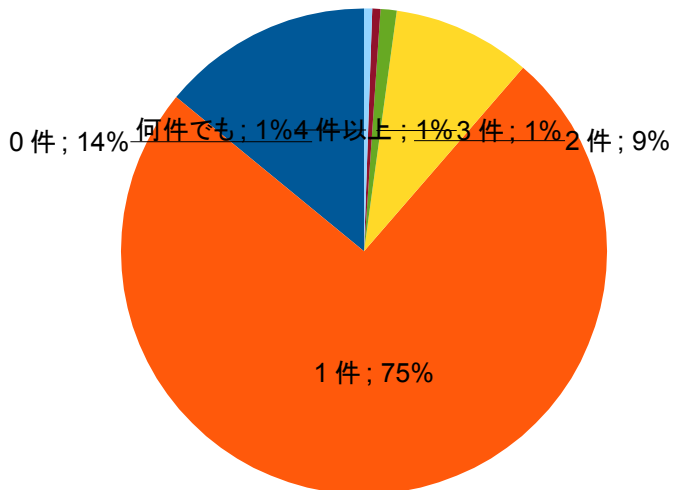
Q2.1 参加したセッションをすべて選んでください。



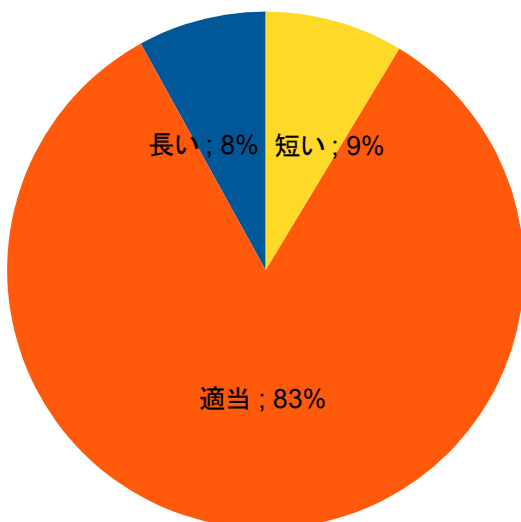
Q2.4 公募企画を来年も行うことについてどう思いますか？



Q2.2 今年は公募企画を1件行いましたが、何件あると良いと思いますか？



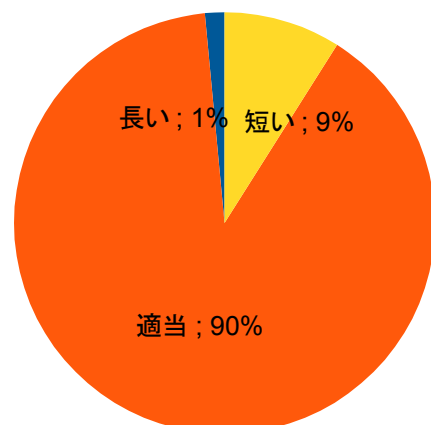
Q2.3 公募企画の時間(1時間)は適切でしたか？



Q2.4 (理由)

- ・無理にやる必要はない×4
- ・参加者が自主企画できるから×2
- ・不毛な議論はやめるべき×2
- ・内容次第×2
- ・枠だけ確保しておいた方がいい
- ・時間が許すなら
- ・何か行き詰まった時にはした方がいいと思う
- ・(夏の学校について)全体で意見交流する機会があるのはいい
- ・アイデアによっては参加者の刺激になるようなものができるため
- ・そもそも存在を知らなかった. やるなら, もっと宣伝を
- ・ただし, 議論が必要な問題
- ・ただし, 種類による
- ・よく分からない
- ・外部からの企画は良いと思う
- ・議題があることは良いと思う
- ・議論のテーマをキープできる司会者を置くなら賛成
- ・継続審議は必要
- ・公募だからいいが
- ・今回は出席出来なかったので, なんとも言えない
- ・今後の事務局担当者に考える機会を与えられる
- ・今年度のように夏の学校のあり方を考える場としてなら賛成
- ・出していない
- ・盛り上がる案件なら
- ・全体でやる企画があればやると良いと思うが,
- ・多分野, 多数の若手が集結する機会なので, アイデアを出して3年後やってみたい

Q2.5 a 講演の口頭発表時間(12+3分)は適切だと思いますか？

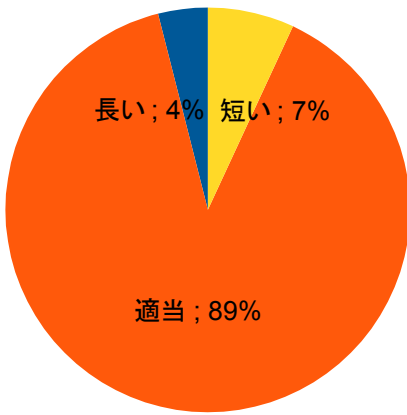


<講評>

今年度の公募企画は「夏の学校の今後を考える」と題して夏の学校の運営について参加者の皆様と議論しました。夏の学校に関して全体をとって話し合うのは初めての試みであり、また事前の宣伝が不十分であったこともあって、参加の割合が昨年に比べて減少しました。しかし、みなさんから活発な意見をいただくことができ非常に有意義な時間であったと思います。

各分科会の一般講演に関しては、口頭発表時間が概ね適当であると回答いただきました。今年度は、各セッション終了後に10分間の質問時間を設けたことで、議論する時間を確保できたことが1つの要因に挙げられます。また、発表者の準備不足も解消されたことで、洗練された発表が多かったことも挙げられるのではないかと思います。

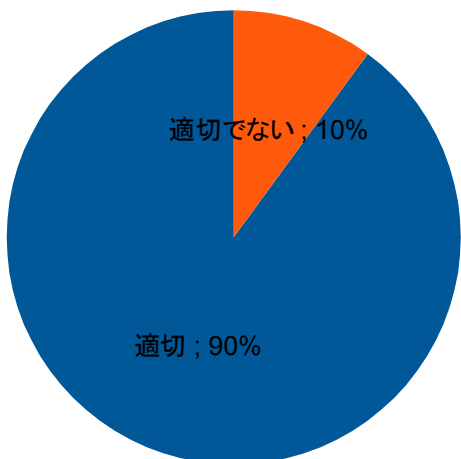
Q2.6 招待講演の時間
(質疑応答込み 30分または60分)
は適切だと思いますか？



<講評>

概ね、現在の講演時間で適当とのことでした。今年も、各分科会で2-3名の方に招待講演して頂きました。現在走っているビッグプロジェクトのお話、研究分野での現状での問題意識といったお話から、研究者としての生き方まで幅広いテーマで講演して頂きました。学会ではなかなか聞けないようなお話もあり、研究という世界を新しい視点で見ることができました。招待講師の皆様ありがとうございました。

Q2.7 今年は8つの分科会を行いました、
研究分野の分け方は適切だと思いますか？



Q2.7 (理由)

- White Dwarfはコンパクトに分類すべき×2
- 「銀河・銀河団」がまとめられすぎて、もやっとしているような感じがする
- AGNの分類が微妙
- AGN分科会を作ったらいい
- あまり細かすぎても
- これ以上の細分化はできない
- それ以外の良案はなさそう
- どの分科会も極端な人数の多寡がなかった
- 意見を募る位ために続けるべき
- 宇宙素粒子に人が集まらなくなっている
- 宇宙素粒子分科会は観測機器とまとめるべき
- 宇宙論が多すぎた
- 宇宙論と重力理論は別な気が
- 議論の進め方に適切な誘導が必要
- 興味のある分野を集中して聞くことができたため
- 銀河・銀河団
- 公募
- 自分の研究分野の内容が2つの分科会(恒星・コンパクトオブジェクト)に分かれていたり、遠い内容(太陽)が含まれているから
- 初参加の人間からすると、物理学会と分け方が違うのはわかりにくい
- 招待講演は60分に
- 太陽・恒星
- 太陽と恒星は分けて欲しい
- 分けるよりも流れるような順番が良いと思うから
- 分科会があっているのかわからない講演があった
- 分野によって数のばらつきが大きいように思えた
- 良い
- 例年通りがわかりやすい

Q. 2.8 公募企画や特定の分科会にご感想やご意見があればお書きください。(この回答は座長にもお伝えします)

- 星形成・惑星系⇒⇒a講演の発表者の入れ替えがスムーズに行われなかった時に、順番を入れ替える判断を素早くおこなって時間を無駄にしないようにしていた座長さんが素晴らしいと思った。今後は他の分科会のセッションでも同様のトラブルが起きた際にはこのような対応をされると良いと感じた。
- 銀河・銀河団⇒⇒1・2日目の活発な質疑応答を最後まで持続できれば、非常に良かった
- 銀河・銀河団⇒⇒ポスターアワード受賞者講演おつかれさまでした
- 公募企画⇒⇒事前に議論する問題点だけでも説明すれば、意見の数は増えた
- ポスターアワード受賞者講演⇒⇒企画自体は良いものだったと思うが、スライドを一から作ってもらうなどはあまりにも受賞者への負担が大きすぎる。徹夜で作業させるのはいただけない
- 観測機器⇒⇒自分と近い研究もあり非常に興味深かった。座長の方もお疲れ様でした。
- 夜の分科会⇒⇒懇親会があるので必要ないと思う
- 宇宙素粒子⇒⇒観測機器分科会とまとめるべき
- 公募⇒⇒議論をするならば、その中である程度の結論を出すことが必要
- 銀河・銀河団⇒⇒Mの人の質問が活発だった
- 太陽・恒星⇒⇒座長の司会力が足りない。マイクで話しているのに音量小さい
- 夏の学校の今後を考える⇒⇒最終日にやるべき
- 全てにおいて⇒⇒時間厳守、同一セッション内での時間調整の努力
- 全分科会⇒⇒座長の時間厳守の意識の欠如(銀河・銀河団はよい)、打ち切る勇気、スライドトラブルの多さ、事前の機材操作法の確認と接続テストの時間を設けるべき
- 全分科会⇒⇒ベルの回数の意味の事前説明が口頭で行われなかった
- 宇宙素粒子分科会⇒⇒無くていい
- 全分科会⇒⇒接続テストの義務化、プロジェクトの説明書の準備
- 重力宇宙論⇒⇒1、4日目でスライドが斜め、ホワイトボード

に赤で書かれたところで後ろから見えない！
・ポスターアワード受賞者講演⇒⇒よい

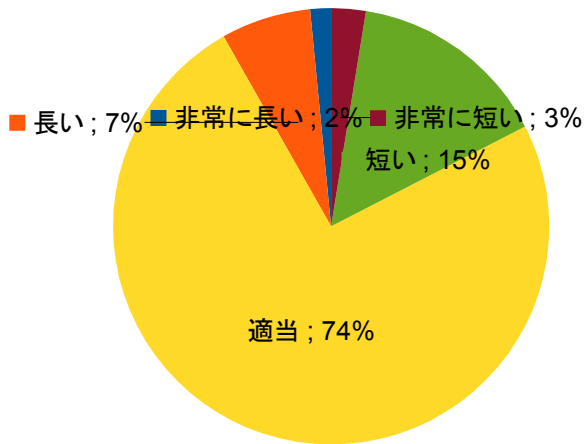
<講評>

各分科会に対して、様々なご意見・ご感想をお寄せいただきありがとうございます。これらコメントは来年度の事務局及び座長団に引き継ぎ、より良い分科会運営を目指していきたいと思えます。

<3、ポスターセッション・ブース出展について>

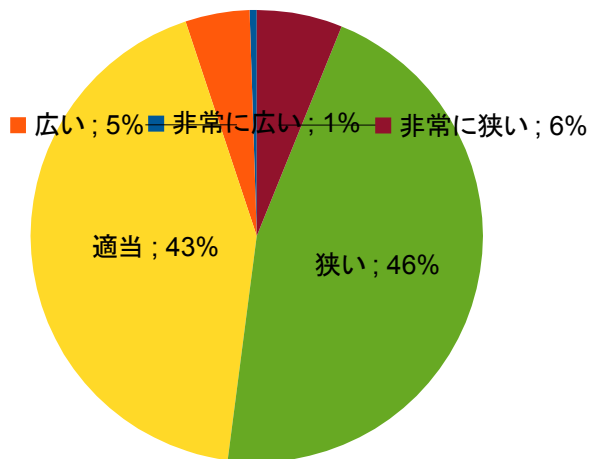
Q3.1

ポスターセッションの時間は適切でしたか？



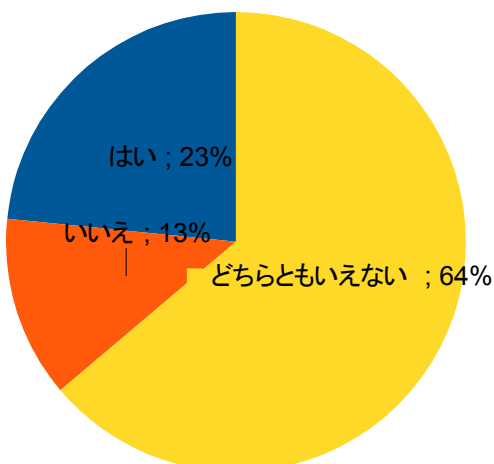
Q3.2

ポスター会場の面積はいかがでしたか？



Q3.3

今年度は企業ブースを試験的に設置しましたが、来年度以降もあった方が良いですか？



Q3.3 (理由・意見)

- ・見ていない×17
- ・興味がない×9
- ・複数社あればよい×5
- ・人がいない×4
- ・自分の分野と関係ない×2
- ・企業の人が見えなかった×2
- ・2箇所に分けると見づらい。参加者の傾向に合っているか
- ・パソコンを使う休憩場所として使った
- ・ポスター会場の近くなど、目立つ場所に設置するべきと感じる
- ・企業のプレゼンがあれば良い
- ・企業の希望があればやれば良い
- ・企業の顧客としてマッチする分野が狭い
- ・企業ブースが有益である人が多いかに依ると思う
- ・企業もどのようにPRすればいいかわかっていないのでは。
- ・参考写真として次年度に引き継ぐべき。
- ・企業側にメリットなさそう
- ・見に行く時間がなかった
- ・自分の研究に使える商品があれば、積極的に見ていきたい
- ・少なくとも、今年は担当者にやる気を感じられなかった
- ・場所がわかりにくい、見やすい所に
- ・場所が離れていたため、気づかなかった
- ・人の流れを作れば良い
- ・専門家の意見は必要だから
- ・双方に利点があったかわからない
- ・ありがたみを感じない

<講評>

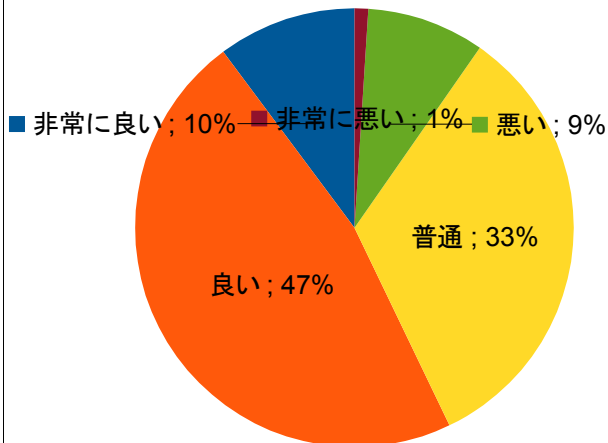
ポスターセッションの時間は概ね適当であったようです。一方で約半数の参加者の方がポスター会場の面積は狭いと感じたようです。ご迷惑をお掛け致しました。会場環境についても、よりよいものにしていけたらと思います。

また今年度は、企業ブースを試験的に設置しました。しかし企業ブースの宣伝が不十分だったことからあまり認知されていないようでした。今後は、企業ブースの継続も含めて宣伝など議論していきたいと思っております。

< 4、講演プログラム集について >

Q4.1

プログラム集の体裁・内容はいかがでしたか？



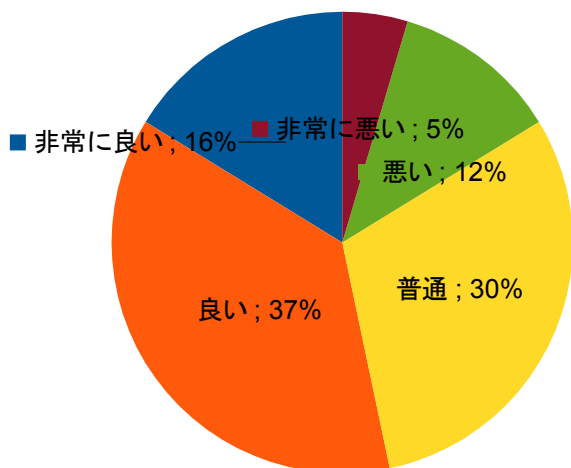
- ・気がつきませんでした
- ・経費削減に貢献している
- ・誤植が多い。
- ・昨年パターン希望
- ・紙ベースのアブスト集もあった方がよい。メモを書き込める
- ・持ち運びに便利
- ・集録のPDFは1つにまとめて欲しい
- ・集録の事前提出の負担はあるものの、良かったと思う
- ・宿についての情報をもう少しのせてほしい
- ・招待講演のアブストは載せるべきだと思う
- ・招待講師一覧があると良い
- ・総会とは何か？など説明不足が多々みられた
- ・日にちごと書いたほうが良い
- ・発表順番の変更も載せてほしい
- ・時系列順にまとめて欲しかった

< 講評 >

今年度は経費削減のため、例年の予稿集とは異なりアブストラクトの部分を電子化しました。これに関しては概ね良いというアンケート結果となりましたが、アブストラクトの冊子化を求める声も少なからずありました。来年度以降は予算との兼ね合いを見ながら検討していきたいと思えます。

Q4.2

費用削減のためアブストラクト部分は全てweb掲載にしましたがいかがでしたか？



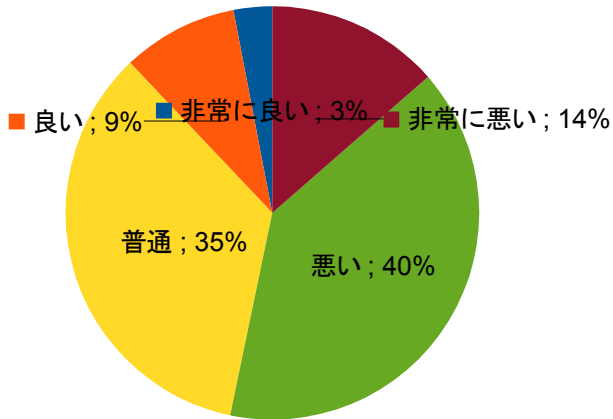
Q.4.3 講演プログラム集についてご意見・ご要望などがありましたらご自由にお書きください。

- ・アブストもある方がよい×12
- ・今後もアブスト集はweb掲載でよい×2
- ・LANの使える環境であればアブストを載せなくてよい×2
- ・招待講演はアブストが欲しい、一般は無くても問題ない×2
- ・見やすい×2
- ・時間割が見づらい×2
- ・アブストをプログラム集に含めて欲しい×2
- ・p. 1-5で左右の余白が少々足りないと思った
- ・カラーでなくていい
- ・メモ欄小さい
- ・アブストを見なくなった
- ・プログラム集の公開をもっと早く
- ・ポスターセッションの場所ごとの地図(名前記載)が欲しかった
- ・レビューにはそう書くべき
- ・運営側の負担と経費削減に効果的であったならば、この方向性で行くべき
- ・各会場でいつ誰が講演してるか分かるページが欲しい

<5、会場について>

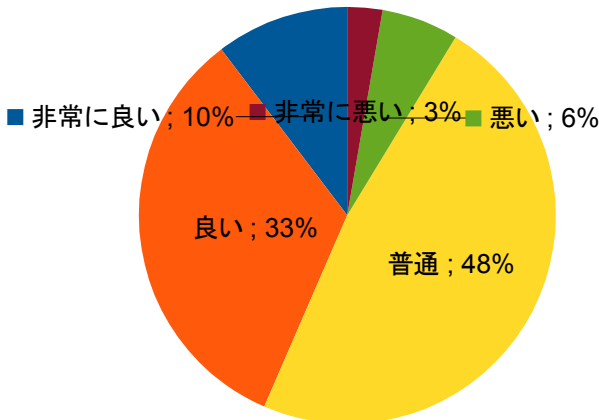
Q5.1

会場の立地・アクセスはいかがでしたか？



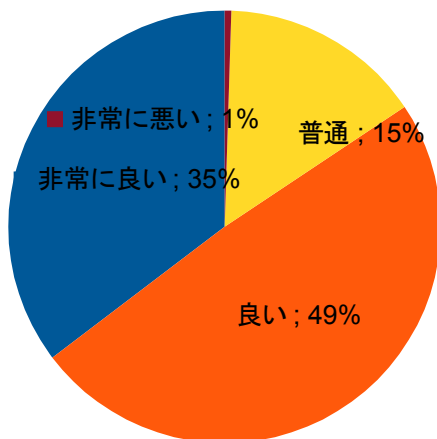
Q5.2

シャトルバスはいかがでしたか？



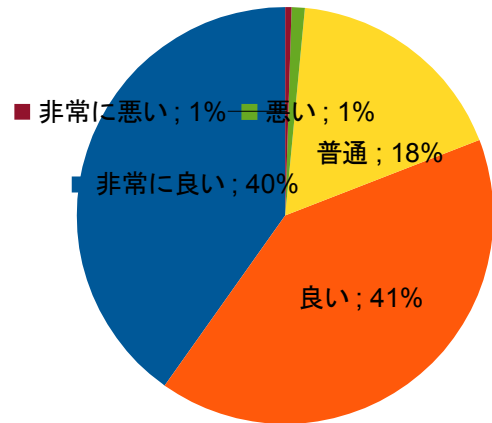
Q5.3

会場の宿泊設備はいかがでしたか？



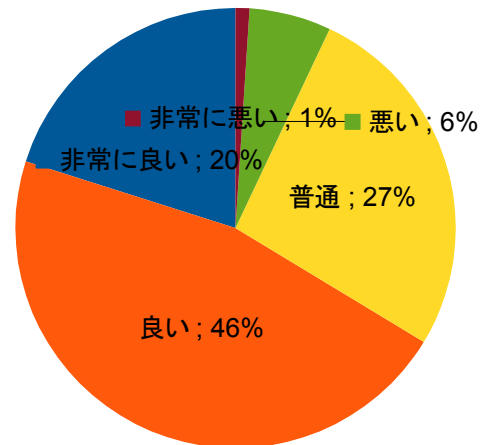
Q5.4

食事はいかがでしたか？



Q5.5

セッション会場はいかがでしたか？



Q5.6 会場に関してご意見、ご要望などがありましたらご自由にお書きください。

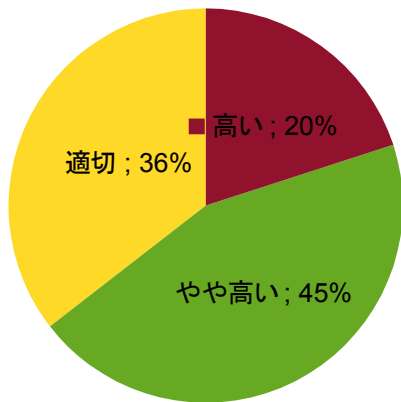
- ・C会場が狭い×15
- ・ネットが繋がらず不便×8
- ・駅から遠すぎる×6
- ・招待講演は広い会場で行った方がよい×3
- ・コンセントが無い×3
- ・会場(ホテル)はよかった×3
- ・バス移動も不便×2
- ・AB会場間の音漏れが気になった×2
- ・A会場でスライドが見にくかった×2
- ・アクセスのいいところにすべき！×2
- ・夜の分科会の部屋が狭い×2
- ・食事は朝夕はよかったが昼はよくない×2
- ・隣の席の間隔が狭すぎる×2
- ・隣の会場の声が漏れてくる×2
- ・C会場が暑かった
- ・C会場のハウリングなど問題を放置しないで欲しい
- ・C会場は画面が見にくい
- ・グレードを下げ、費用を安くしても良いのでは
- ・セッション会場の照明が暗く、メモを書くのに苦労する
- ・プロジェクタの調子が悪かった
- ・B会場はスクリーンが遠い

- ・食事が美味しくない
- ・会場 AB が広すぎ
- ・会場が狭い
- ・会場により広さが異なる
- ・もう一部屋借りることができれば、招待講師の発表が 30 分とかではなく、1 時間たっぷり講演していただけたのではないか。
- ・空席が目立つ会場があった
- ・昨年と比べれば食事はよかった
- ・参加した中で一番良かった
- ・周辺に何も無い
- ・食事がよかった
- ・立ち見があった、口調設備イマイチ、
- ・値段と釣り合う食事ではなかったように思います
- ・座長団がスライド見づらそう。マイクが足りてない。
- ・部屋全体を暗くしなくても良い。
- ・夜の分科会会場が朝方まで使えなかったのは不便。3F でインターネットがほとんど使えなかったのはかなりきつかった
- ・冷房効きすぎ、昨年もそうだった

<6、参加費用について>

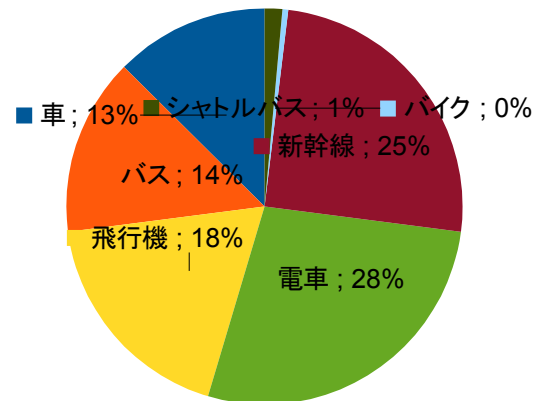
Q6.1

宿泊費・参加費は適切だと思いますか？



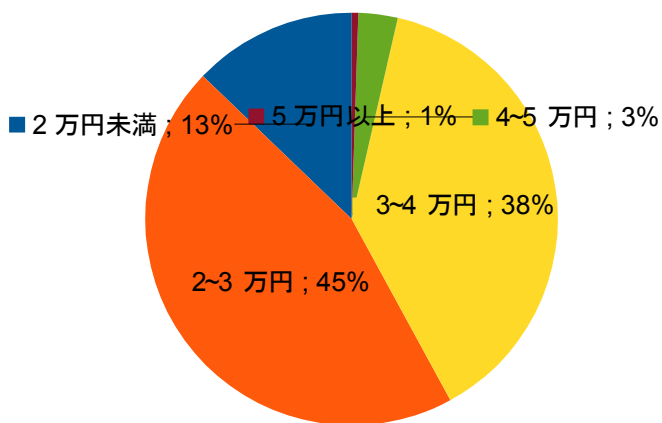
Q6.4

主な交通手段は何でしたか？



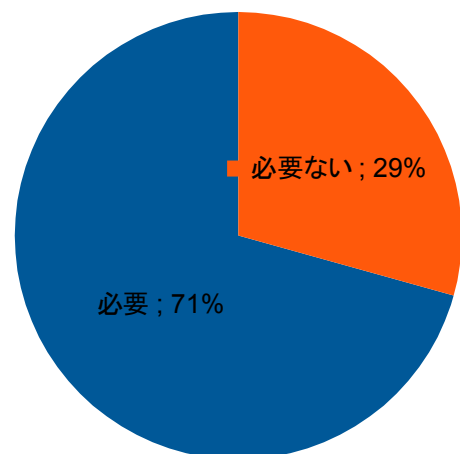
Q6.2

宿泊費・参加費はどのくらいまでなら許容できますか？



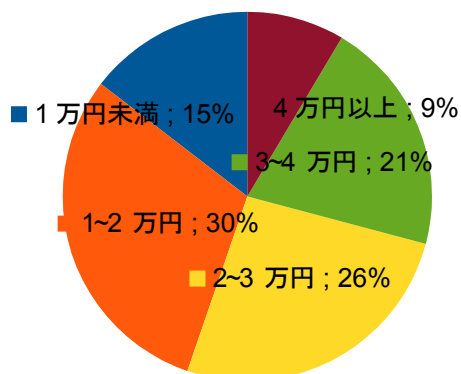
Q6.5

旅費補助は必要ですか？



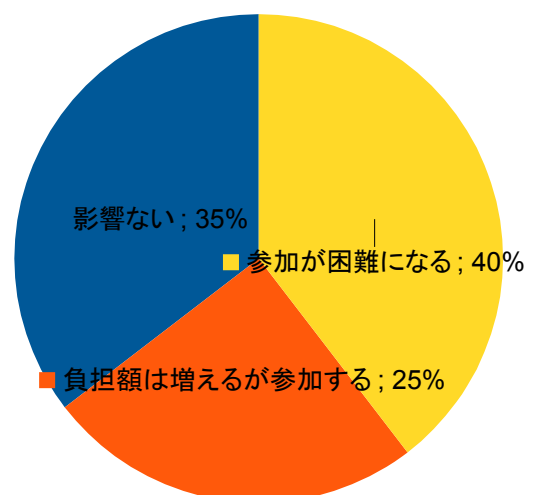
Q6.3

往復の交通費はどの程度かかりましたか？



Q6.6

支からの旅費補助が受けられない場合、参加に影響は出ますか？



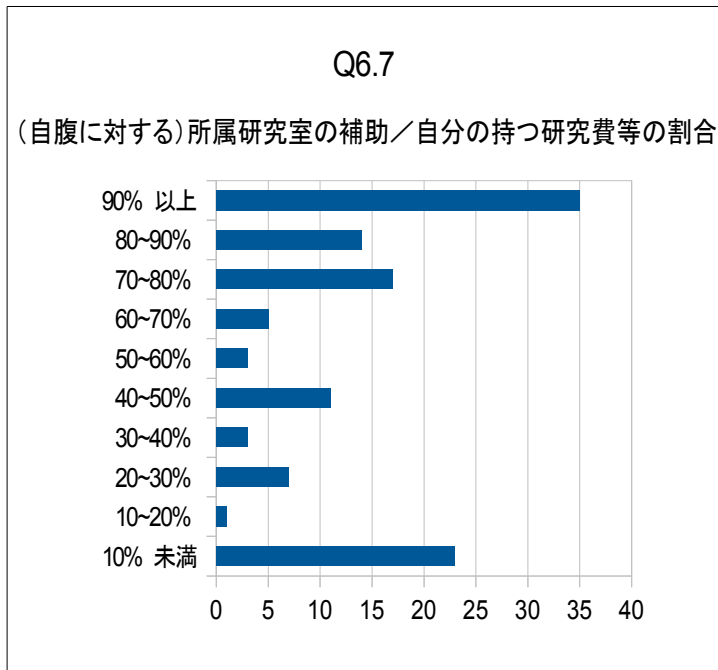
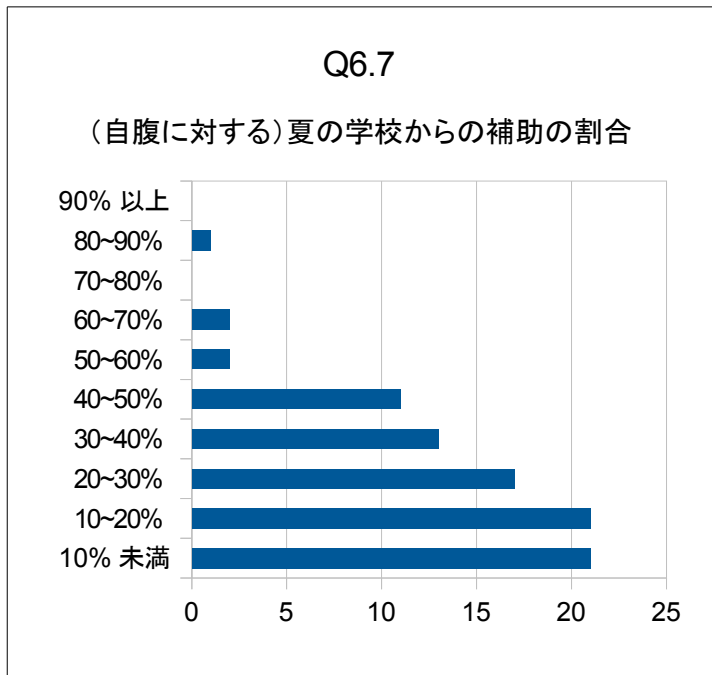
Q6.7 交通費・宿泊費・参加費合計のうち、財源の割合をお答えください

<講評>

会場については、仙台駅からのアクセスが悪く参加者のみなさんにお手を煩わせる事となり申し訳ございませんでした。一方で食事や設備などには多くの方に満足いただき嬉しい限りです。セッション会場について、会場間の音漏れやC会場の狭さなど指摘を受けました。会場設備の都合上、マイク音量でしか調整ができず、極力音漏れがないように調整をしましたが、それでも不十分でした。申し訳ありませんでした。

参加費・宿泊費に関しては65%の方が高いと感じており、自費に対する夏の学校からの補助の割合が30%以下の方が多という結果がでています。

350人以上が宿泊でき、交通の便が良く、並行して3つの講演会場を用意できる宿泊施設は極めて少ないのが現状ですが、できるだけ多くの方に参加していただけるようにこれからも会場選びについては議論をしていかなければならないと考えております。



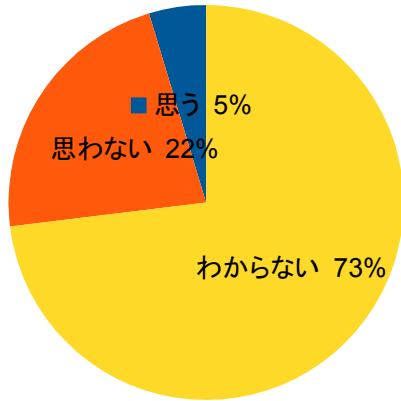
両方から補助を受けた不届きもの

自腹	研究費	夏の学校補助
80	10	10
25	50	25
0	90	10
25	50	25

<7、今年度の試みについて>

Q7.1

近年の夏の学校の質は低下していると思いますか？



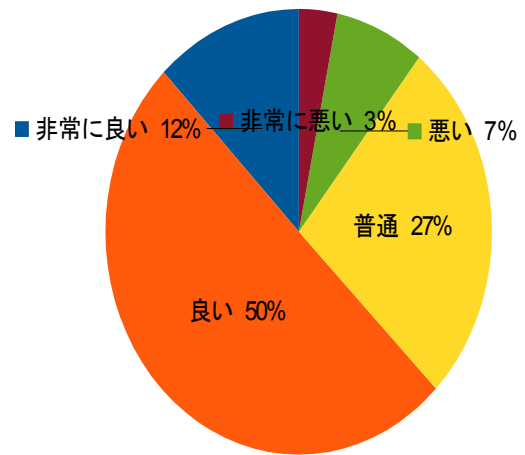
Q7.1 (理由・意見)

- ・初参加のなのでわからない×19
- ・昨年を知らない×7
- ・そもそも質って何？×3
- ・2回目の参加でわからない×2
- ・低下している理由は「『夏の学校』は単なる飲み会」という認識だから×2
- ・M1のレベルが低いのは仕方ない。ここ3年でレベルが下がったとは思わない
- ・そもそも質は定量的に評価できるものなのか疑問、質の高さは聴く人によって違う、また質の変化があったとしてそれは十年程度のスケールで見ないと揺らぎがあって判断がつかないから、今回の参加で判断しろというのは無理
- ・そもそも天文台から具体的な内容を聞けていないので、この議論は成り立たない
- ・そもそも発表練習や、ベテランに師事する場であるべき
- ・どこに着目して質の低下と言っているのか
- ・レビューばかり。しかも新しいこともなく、ただの紹介
- ・見た限りレベルは高い
- ・元々質は高くない
- ・今回は早めの集録提出もあり、非常に良い発表だった
- ・参加してない機関が分かることか？
- ・質が向上しているとも感じていない
- ・質問・コメントが多く出ている
- ・集録の件で逆に低下した（面倒くさいと思う博士課程の学生が多い）
- ・過去の発表記録等を見たことがないため、今回に関しても、個人的には質が低いとは思わなかった
- ・初参加のため、過去の集録も数本しか目を通していない
- ・上の文章からも質の低下が言われているように感じない
- ・他を知らないから
- ・大学から参加を勧められた

- ・天文台...
- ・博士課程が少ない
- ・発表内容の事を指しているのなら、ふざけないで欲しい
- ・発表練習と思っている人がいた
- ・分からない
- ・分野にもよるが、実験／解析系は微妙だった
- ・毎年参加してる人は、自分のレベルが上がってるからそう見えるだけ

Q7.2

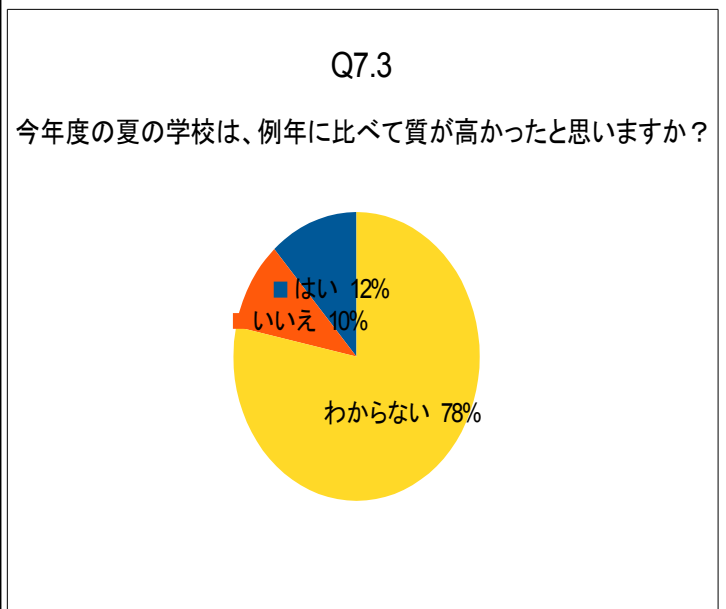
天文台のコメントを受けた、今年の事務局の「質の底上げを目指す」という方針をどう思いますか？



Q7.2 (理由・意見)

- ・質の定義が明確でない×5
- ・事務局に無駄な仕事を増やしただけ×3
- ・Q7.1と同じ×2
- ・試みは良い×2
- ・参加者の負担は増加した×2
- ・集録提出が早い×2
- ・方法が悪い×2
- ・理念はよい×2
- ・M1の発表の場として有意義
- ・M1の発表機会は重要だが、質が低いものはだめ
- ・いずれにしても考慮すべき
- ・コメントを反映させる姿勢が良い
- ・そんな事は学会でやって欲しい、夏の学校でやるものではない
- ・だが、講演が集まらないのでは意味がないと思う
- ・ただの交流会なら大金かける必要はないし、参加者が院生だし理解できる
- ・やるのは問題ない、向上心が欲しい
- ・意欲のある人が集まった
- ・一方で天文台のコメントをもっと吟味して、価値の有無をはっきりすべき
- ・何かやろうとするのはいい、結果はやってみない事には分からない

- ・夏の学校の質が上がれば、日本の若手研究者のレベルの向上にもつながると思うから
- ・夏の学校の目的の明確化が必要
- ・各年で特色があると良い
- ・学生間交流のほうが重要
- ・研究会としては重要な事だと思う
- ・研究会の第一義
- ・今後の発表にも役立つ
- ・査読なしなら事前提出の意味が無い
- ・質の向上を掲げて、M1の参加が憚られる状況に不満
- ・質の高い研究のきっかけになればよく、よい発表に拘る意味が無い
- ・質の高い研究会をして、全国の大学院生がお互いに刺激しあうべきだと思う
- ・しっかりした研究会が良い
- ・集録で判断できるのか
- ・質の底上げが求められるから
- ・質の底上げを狙うのであれば研究1,2年目のM1にそれをたくすのではなく、博士の方々などが担うべきかと
- ・質の良い発表が集まるのは良いことだと思う
- ・質を良くするのというのは良いことだと思う
- ・実際に「どう質が改善したか」はともかくとしても、夏の学校の開催方針に質向上を掲げることは悪くないと感じる
- ・若手の発表の場であるという夏の学校の意義が守られる範囲で
- ・若手同士の交流が質の向上につながる
- ・修士学生に発表機会を与えるべき。質を上げたければ論文レビューを認めないようにすべき
- ・集録の期限を延ばせば、良い発表できた人もいる
- ・将来、同世代で研究していく人と出会う場だから
- ・上の意見に負けないでほしい
- ・上記の変更の3番は良かった。1番は正直M1に発表させたくないからやったように思えた。
- ・足切りはだめ
- ・妥当
- ・底上げって何？
- ・天文台のコメントに関わらず目指すべき
- ・天文台の考えはわからんが、今年の試みは質が向上したと思う
- ・努力はすべきだが、仕方ない部分もある
- ・方針は自由だと思う
- ・方針を立てるのはいいが無謀
- ・毎年新しい試みをすることで質の向上につながる
- ・有意義
- ・天文台からのコメントとは？
- ・座長を博士課程の学生にする
- ・理由を聞いていないから
- ・良い発表を聞くとモチベーションが上がる
- ・時間も人もかかっているので質の底上げは有意義だと思う

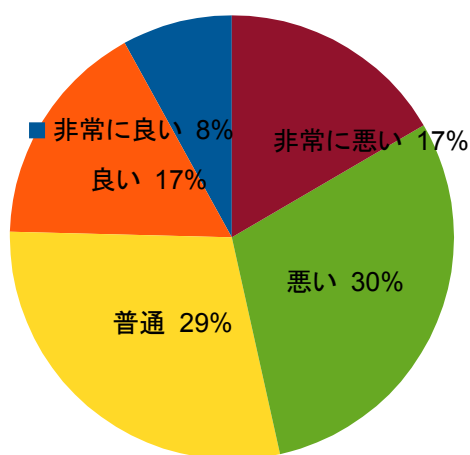


Q7.3 (理由・意見)

- ・Q7.1と同じ×7
- ・初参加なのでわからない×5
- ・質問がよく出ていた×3
- ・質の悪い発表というのは特になかったと思う×3
- ・準備不足の発表がなかった×3
- ・質、底上げがわからない×2
- ・2回目の参加でわからない
- ・3年で変化なし
- ・ポスターセッションが活発だった
- ・わからないが、集録のフォーマットが一貫したことで、第一印象は良い
- ・何をもって質とするのかは議論がある、発表自体を自分の研究にするか、レビューでも近年のもので活発な議論で学習させるのか？
- ・去年は参加していないから
- ・研究していると感じた
- ・口頭・ポスター発表共に去年と大きな違いはみられなかったと思う
- ・査読は行われていないし、Dの学生も増えていない
- ・昨年よりよい
- ・昨年より多くの質問が出た
- ・修士学生の質が高い
- ・集録に縛られて、変更などが難しい
- ・多くのM1が自分の研究を楽しんで説明していた
- ・特に高いとも低いとも感じない
- ・博士課程の学生が減って議論から得られるものが無い
- ・発表者依存が大きすぎる
- ・発表内容に関しては変わっていない
- ・良いセッションが多くあったと思う
- ・例年と変わらない
- ・例年通り、質が高かった

Q7.4

集録の事前提出はいかがでしたか？



Q7.4 (理由・意見)

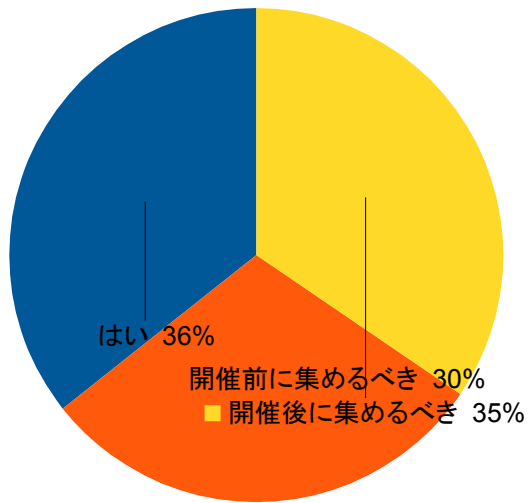
- ・提出時期が早い×13
- ・参加者負担が大きすぎる×6
- ・M1 は間に合わない×5
- ・講演数が減った×4
- ・査読なしなら無意味×3
- ・事前に自分の発表内容を固められる×4
- ・時間が足りない×3
- ・時期的に苦しい×3
- ・発表内容と集録の不一致×3
- ・時間のムダ×2
- ・M1 には時間的に厳しかった×2
- ・「集録は」質が悪かった×2
- ・面倒になっただけ×2
- ・M1 の早い段階での集録提出は困難×2
- ・「とりあえず応募」を減らせたのは良いが、M1 への負担が大きすぎる。博士課程の参加者減にもつながっているのでは？
- ・4 ページまでいかななくても、1 コラム 4 ページ位にして欲しい、査読も大変
- ・質が上がったのであれば良いと思う
- ・M1 の 5 月末に研究をまとめるのは困難。せめてアブストを 5 月末、集録を 6 月末などにすべき
- ・M1 の集録は、大学によって偏りができると思う
- ・M2 の参加者が非常に少なくなる（就活終わりのため）
- ・アブストの字数を増やす程度にとどめるべき
- ・アブストラクトは早い時期に集めるべきだが、集録はいささか早すぎたように思う
- ・プログラムが薄くて良い
- ・ページ数（文字数）が多すぎる。ポスターより情報が多いならポスターの意味がない

・まだ研究が軌道に載っていない（慣れていない、勉強中）段階で集録と言われても...

- ・わからない
- ・意味が無い
- ・何をもちて質とするのかは議論がある
- ・学会ですら行っている所は少ない、発表者を減らしたい意図なら悪くないやり方
- ・逆に M1 に不利になりすぎる
- ・結果的に博士課程の学生が減った
- ・研究 1 年目になるとレビューが増えてしまうので、集録を作成できる能力が本当にその人の能力とは限らないのでは
- ・講演と集録の内容に差異があるのは良くない
- ・講演前に具体的な内容がわかるので便利
- ・査読はなかったが、意欲のある人だけが参加したのでは
- ・参加者減で事務局の負担軽減になるのであれば賛成
- ・試みとしては良かった。質の向上につながったかは不明
- ・事後提出でいい、配られないし誰も見ないのでに労力かけすぎ
- ・事前に会場の順番を決定することができるから
- ・質の向上に影響したかどうかわからない
- ・質の低下につながる
- ・修士から研究室を変えた人にとって、5 月に集録を出すのは限界がある
- ・集録でない方法が良い
- ・集録でなく予稿のほうが書きやすい
- ・集録の提出は良いが、期限が早い。まだテーマが決まっていない人もいる
- ・集録は発表内容をまとめて出すものである
- ・準備時間が不足しがちである
- ・初の事態でしんどい
- ・上記のような理由があるのなら良いと思う。しかし、負担に少しなる可能性はある
- ・早い時期に始動できる
- ・大学院から分野が変わった人にとって、集録提出までに成果を出すのは困難
- ・大変だった。アブストと時期を分けても良いのでは
- ・提出側はきついが、質は少し向上した
- ・提出時期早いなら出なくていいや、という人は増える
- ・内容が固まる前に提出しなければならなかった×2
- ・馬鹿げている
- ・博士課程の人は時間が取れないと思う
- ・発表がわかりやすくなる
- ・労力の割に合わない
- ・ポスターに集録はいらない

Q7.5

a、b 講演での集録の提出時期は妥当でしたか？



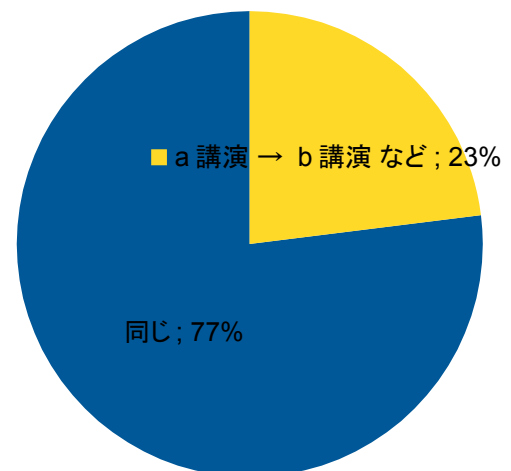
Q7.5 (理由・意見)

- ・提出時期が早い×16
- ・内容が変わっている発表もあった×5
- ・Q7.4 と同じ×4
- ・2週間前でいい
- ・6月下旬
- ・a 講演は早すぎて、実際の発表と合わないものが多いし、またテーマを始めたばかりで作れない
- ・M1 の研究発表の場としてはあまりに早い
- ・M1 は大変だが、鍛える上ではよい
- ・M1 への負担にならない範囲で集めるように時期を決定して下さい
- ・アブストだけ事前提出で良い
- ・アブスト提出と同時期では早すぎる
- ・ただし、時期は直前にすべきと感じた
- ・ほとんど研究の進んでいない M1，学振書類の提出時期のかぶっている M2，D1 にとって非常に都合が悪い
- ・もう少し遅くて良い
- ・わからない
- ・何をもちえて質とするのかは議論がある
- ・開催前にはレジュメ程度にして、開催後に集録は集めたらどうか
- ・開催前は良いが、レジスト時は早い
- ・学振書類提出と重なっている
- ・間違いの修正期間が欲しい
- ・告知からの時期が短い
- ・今回の提出時期は M1 にとって、「研究期間」<「発表準備期間」となっており、質の高い研究が行いにくかったように思うから
- ・昨年のかたは大変そうに今年を迎えていた
- ・参加者減少に成功したが、質は向上せず

- ・事務局的にはこの時期しかない
- ・集録は当日の発表中にも読みたい
- ・集録を集めるのが早すぎると M1 の負担が大きいのと思う
- ・集録受付期間が短い
- ・申込時から開催時までの間で集めたらよい
- ・先に提出したほうが、質は向上しそう
- ・提出日も7月初旬くらいでないと M1 が大変
- ・適当なものを出してレベルを下げることになるのでは
- ・博士課程の人は時間が取れないと思う
- ・発表で得た意見が反映されるから
- ・発表までに意見を決めたい
- ・発表前にできるわけがない
- ・発表前に見る事はほとんどない
- ・本来集録とはそういうものだから
- ・問題はあったかもしれないが、査読すべきなら事前で適切
- ・時間が足りない

Q7.6 集録の事前提出が無ければ発表形式は変わってしまいましたか？

Q7.6 (発表形式の変更)



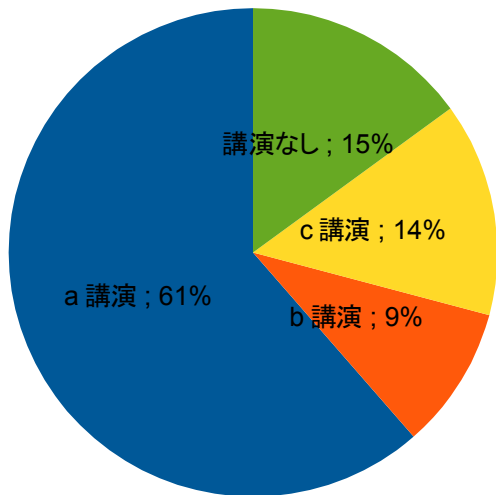
(注)

「同じ」とは、事前提出でなくても講演形式が変わらないと回答した人。

「a 講演→b 講演など」とは、事前提出になった事で講演形式を a→b、b→c、a→c、もしくは講演自体を取りやめたと回答した人を全て含む。

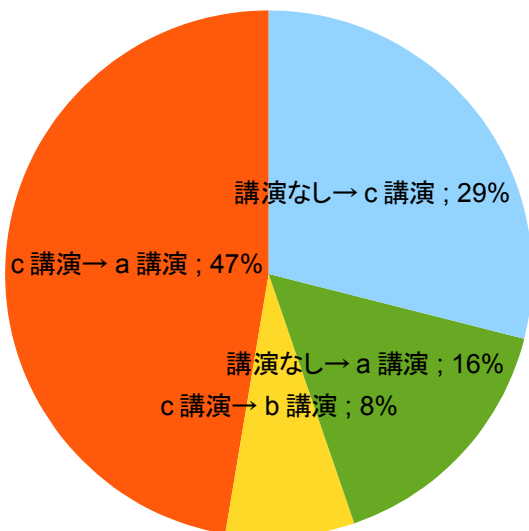
逆に、事前提出になった事で講演形式を b→a、c→b、c→a、もしくは講演する事にしたと回答した人はいませんでした。

Q7.6 (発表形式を変えなかった人の内訳)



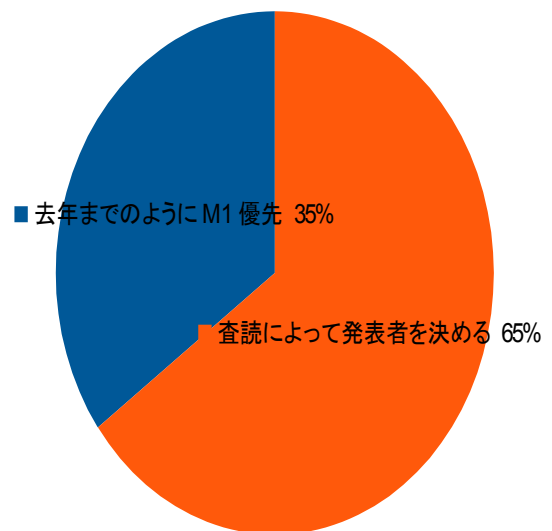
- ・研究テーマが固まらないまま締切が近づいた. アブストだけなら a講演に申し込めた
- ・個人的に期間が実質 1-2 週間しかなかったので, a講演の準備に間に合わない
- ・間に合わず断念した
- ・今回は何もしていないから
- ・今回は時間が無かった
- ・自分の現在の研究発表をしたかったが, 間に合わなかった
- ・ポスターあきらめた
- ・集録作成が間に合わなかった, M1 としては不慣れで大変だった
- ・準備不十分で発表せざるを得なかった
- ・締切上の問題
- ・内容は変わったはず
- ・博士課程の人は時間が取れないと思う
- ・発表してみようかなと思ったはず
- ・発表するほど成果は出ていないが, 意見が欲しかったため, ポスター発表のみの参加としていたから
- ・発表の経験を積みたい
- ・分からない
- ・メリットがない
- ・時間が足りない
- ・時期が厳しくあきらめた

Q7.6 (発表形式を変えた人の内訳)



Q7.7

口頭発表希望者が多い場合に、口頭発表者を座長団の査読により決めたほうが良いと思いますか？



Q7.6 (理由・意見)

- ・集録が面倒×3
- ・口頭発表したかった×2
- ・変わらない×2
- ・a,b講演の締切が早い
- ・a講演するつもりだった
- ・M1 でやる事が多すぎて分からなかった←知らなかった
- ・ポスターで発表したい内容だった
- ・ポスターより情報が多くなる点に納得できなかった
- ・まだ研究の結果が明確に出ていないので c と決めていた
- ・学振書類の提出と時期がかぶっていた
- ・間に合えば b にしていた
- ・研究ではなくレビューになるから (開催後提出なら自分の実験に着手できたかもしれない)

Q7.7 (理由・意見)

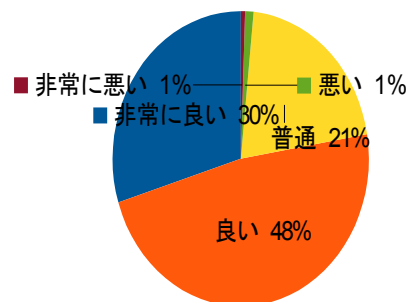
- ・良い発表を聞きたい×7
- ・M1 の発表の場として×5
- ・アブストを査読する×2
- ・座長団の負担は増える×2
- ・質の向上のため×2

- ・質の高い発表を優先×2
- ・「質の向上」という体面を示す手っ取り早い方法
- ・M1 で準備できてない人もいっぱいいた
- ・M1 の発表にレベルの低いものがあった
- ・M1 の発表を優先する理由がない。ポスターが下というわけでもない
- ・M2 以上の発表を聞くことも、勉強の1つになると思うから
- ・M2 以上は天文学会に焦点を合わせるべし
- ・アブストだけで査読は難しいかも
- ・アブストラクトもしくは査読用により詳しい文章を後から集めるとかにすると良いかと思う
- ・この研究会は1のままが良いと思った
- ・そのための夏の学校のはず
- ・ちゃんとやってくれそうな人に絞るため
- ・どちらでも
- ・ぶっつけ本番で学会発表しろというのか
- ・プレゼン練習の機会としても使えるので
- ・もっと絞っていいと思う
- ・レベルが上がる
- ・わざわざ M2 以上が夏の学校に来て発表する必要はない
- ・意欲を優先すべき
- ・一度は行うべき
- ・下手な発表を聞きたくない
- ・何を重視するのか
- ・夏の学校の方針次第
- ・夏の学校は発表練習を兼ねているのではなかったのか？
- ・基本的に若手に発表の機会を与えるのが良いと思うが、発表者を選ぶことには賛成
- ・口頭発表希望者の M1 の割合を見て、一定数の枠を確保した上で、残りを割り振ればよい
- ・今年、M1, M2 の発表が非常に多かったが、とても質が良かった
- ・査読ができるなら
- ・査読した上で M1, M 2 の人数比が常識的になるように
- ・査読する座長団に負担がかかるなら、他の方法にしたほうが良いと思う
- ・査読する人を慎重に選ぶべき
- ・査読の労力が不明
- ・査読負担増、夏の学校は M1 が発表するために各研究室で指導される事が本質的
- ・座長団であろうと自分の専門と違う分野（今回で言う大カテゴリ・小カテゴリ）の正しい評価なんてできない
- ・少しでも質の向上をしたいなら査読
- ・質の向上が「大部分を占める M1 の研究の質の向上」であれば査読は有意義
- ・質の高い発表が期待できるから

- ・質の高い発表を a に回すメリットを感じない
- ・質の底上げになる
- ・質をあげるのであれば 2, 経験のためには 1
- ・若手の会なので意味がなくなる気がする
- ・集録事前提出で効果があるのであれば、査読は不要では
- ・新人優先がよい
- ・切磋琢磨し、質を向上させられる
- ・多くなくとも査読すべき
- ・多くの発表を聞きに来ているので、どのような人でも、多くの人が聞きたい発表を優先すべき
- ・天文台の補助のため
- ・平等が良いと思うから

Q7.8

a、b 講演者と直接議論できる時間を設けましたがどうでしたか？



Q7.8 (理由・意見)

- ・有意義だった×2
- ・3 分間の質疑では足りない事が多いので
- ・b 講演の質問時間は短い。質問はポスターセッションで全てすませば良い
- ・あまり意味があったとは思えない
- ・この時間を活かした人、そうでない人がいた
- ・もっと時間がほしい
- ・顔を覚えられない可能性が高い、発表者を特定しやすくなるなら問題ない
- ・議論しやすい
- ・議論する時間が一番大切だから
- ・議論できる時間が増えた
- ・議論の時間が無くても、気になれば自分で聞きに行く、あればあっても
- ・議論は活発になった
- ・議論を行えるのはよい、システムを少し考えたほうがいい(講演順に並べるとか)
- ・休憩時間に組み込んで良い

- ・興味を持った方と深いところまで議論ができたため
- ・交流が深まった
- ・口頭発表時間中に質問できなかった人がいたからいいと思う
- ・講演と講演の間の質疑応答時間だけだと十分に議論できないことが多いので
- ・講演の記憶がはっきりしているうちに議論できる、非常に有意義時間の許す限りやったほうが良い
- ・講演の質疑応答ではどうしても制約が生まれてしまうことがあり、ポスター発表と同様のくだけた雰囲気というのは必要であると感じるため
- ・試みはよいが、講演順に並ばせるぐらいの事はしたほうが良い
- ・事務局の思ったとおりに機能していなかった
- ・質疑応答は短くなるので、後で質問するのに便利
- ・質問・コメントできた
- ・質問しやすい
- ・詳しく話をすることができたため
- ・正規の時間に終わらず、質問時間を削られていたので改善したほうが良い
- ・設けた事で意味を為していない
- ・直接議論の時間はとても充実していた、続けて欲しい
- ・発表に対して質問してもらえると嬉しい
- ・発表のみで投げっぱなしにならなかった。活用されていたと思う
- ・発表時間内に消化しきれない内容を確認できた
- ・良かった
- ・時間に余裕があつてよかった

- ・ポスターの近くにいない
- ・ポスターを書いた人がいついるかわかって良いと思う
- ・ポスター会場が悪すぎた
- ・メモ欄を増やして頂けるとうれしい
- ・位置が悪い
- ・意思疎通ができた
- ・狭い
- ・効果はあった?
- ・講演者数が減っている。質の底上げのためとはいえ、それにつながったかは疑問
- ・今後も続けるべき
- ・約束の時間にいない人がいた
- ・使用しにくい
- ・試み自体は悪くはない
- ・有効な場合もあったみたい
- ・質問書いたら応えてくれた
- ・出会い
- ・人気ある発表者とはポスターセッション時間内になかなか捕まらず役に立った
- ・他学部から入ってきた M1 にとって集録まで要求するのは厳しすぎる
- ・日本人はあまり活用できていないようだった
- ・無意味
- ・ポスターセッションがあればいい
- ・良いとは思ったが、コメント欄が使用されているところがなかったため
- ・良い案だが、参加者が慣れていない話をする機会が増えた

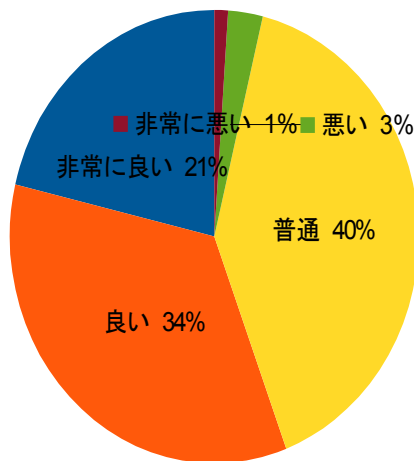
Q7.10 今年度の試みについて、ご意見などがありましたらご自由にお書きください。

(意見)

- ・集録の提出時期が早い×2
- ・A 講演を 2 つに分けたらどうか? 10 分の人と 20 分の人など
- ・アブストの差し替えをしたい
- ・こういう試み積極的に行うのはいい
- ・コンセプトは良いが、方法が良くない
- ・チャレンジする事はいいと思う
- ・とても満足した内容だった
- ・ポスターアワードの準備が大変そう
- ・ポスターアワードはよかった
- ・ポスターのそばにいない人がいた、見る側は困る
- ・ポスターのメモは、発表者が”何時にはいる”というメモを残せることで、ポスター発表者も他の発表を見にいけない良かったと思う
- ・レベルをあげようとして、かえって下がった。負担も増加し、害悪であった
- ・意欲のある人が集まった
- ・一気に変えすぎた
- ・飲み会の席をくじで決めるのはどうか

Q7.9

ポスター会場において、発表者と直接議論をしやすくするためにメモを用いましたが、どうでしたか?



Q7.9 (理由・意見)

- ・使わなかった×19
- ・活用されていない×13
- ・時間を書かない人が多い×3
- ・ペンを用意してほしい×3
- ・いくらか便利だったと思う
- ・コンタクトが取りやすくなったと思う
- ・すばらしい

- ・概ね良かった。こうした試行錯誤を毎年やっていくべき
- ・頑張りが見えた
- ・休憩時間があるからと言って、時間を守らない理由にはならない
- ・今年度からの参加のため、不明
- ・査読は座長の負担大。条件を設ければ良いのでは
- ・査読を行うと決めた以上、希望者が上限に達してなくてもちゃんと査読はやるべきだった
- ・参加者の不満は多いと思うが、それにより参加者が減って事務局負担が減ったならよかった
- ・事務局の負担減はなされたか
- ・質が何を指しているかわからない
- ・質の向上が迷走したように思う。若手の発表の場であることと発表の質の両立はとても困難。まずは若手の発表の場であることを最優先に考えてもらえればと思う
- ・質の向上を試みたようですが、改善点が分からぬまま、指摘してきた方からも意見を聞けず、暗中模索するのはどうかと思います。（向こうの望む質の向上につながっているとは限らないですし）
- ・実際に来てみると論文レビューの人もいて、自分も無理やり何か発表をねじ込んでおけばよかったと思った。集録を事前提出すると聞いて、ビビってしまった
- ・集録の事前提出は再考の余地があると思うが、他は成功していたと思う
- ・集録は研究の段階まで進まなくても書けるのでは？
- ・集録提出は、質が向上したなら良いが、時期はもっと遅らせるべきだと思った
- ・出来れば、a, b 講演と招待講演の間に必ず質問・休み時間がほしい
- ・新しいことをやるのは良い
- ・真の底上げをするなら査読を2回
- ・人数は減ったが、質は向上したか疑問
- ・全体的に良い研究会にしようという事務局の熱意を感じた
- ・続けたほうが良い
- ・直接議論の時間を設けたのがよかった、意見は様々あるかと思いますが新しい事に挑戦されていてよいと思う
- ・特許や、未発表の研究を守るためにも、集録の事前提出はやめるべき
- ・補助を頂いているので、質云々は仕方ない、学年ごとの査読をしては？
- ・来年も新しい試みをすべき

十分議論していく必要があると感じました。一方で、セッション後の質問時間については多くの方に好評価をいただきました。座長団の査読に関して、今年度は発表者多数とならなかった為行いませんでしたが、65%の方が査読によって発表者を決めたほうが良いとの結果となりました。

我々が行った新たな試みに対して多数の意見をいただくことができ、非常に感謝しています。これらの意見は来年度の運営方針に重要なものとなりますので、しっかり反映させていきます。

<講評>

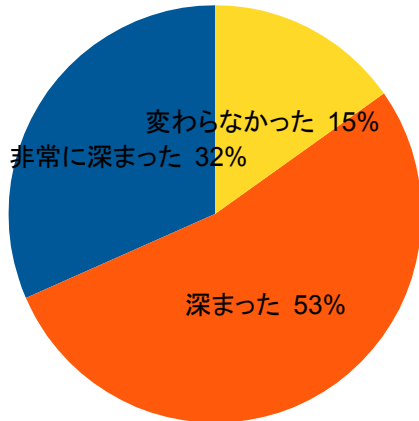
夏の学校の質は低下しているのか、何を持って質を見ているのか。これは事務局内でも最も議論しました。我々としては、なぜ質の低下という指摘を受けてしまったのかその背景を考え「発表者の準備不足」が1つの要因ではないかという結論に至りました。この結論から集録の事前提出という新たな試みを行いました。また発表練習の場を与えるというコンセプトを撤廃し、口頭発表者多数の場合、座長団による査読の実施を設けました。他にもセッション後に質問時間を設けるなどの試みも行いました。

結果として、集録については皆さんから建設的な意見を多くいただき、提出方法、時期ともに適当であったか

< 8、夏の学校の今後について >

Q8.1

夏の学校の運営と負担について理解が深まりましたか？

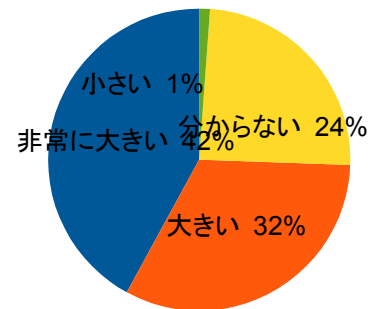


Q8.1 (理由・意見)

- ・事務局員だったので×4
- ・M1より上の先輩がいないので、運営側の情報が何もなかったが、友達が忙しそうにしていたので大変そうだなと思った
- ・一極集中は良くない
- ・何が問題で、何から解決すべきなのかがあいまいだった
- ・愚痴は聞かされたくないのでは
- ・公募企画が効果的だった上、自分が後のssで事務局になることから、事務局員の仕事に注目していたので
- ・公募企画が良かった
- ・公募企画でよくわかった
- ・今年度からの参加なので、運営の負担が手に取るように分かったから
- ・仕事キツイ
- ・実際に運営の当番が回ってくるので
- ・出ていない
- ・初めて現実をみた・辛かったアピールするな
- ・総会に参加したため
- ・総会に参加して、運営の大変さも理解できた
- ・大変そうです。お疲れ様でした
- ・当初考えていたより、はるかに大変だった
- ・同室の運営の子に話を聞いたから
- ・役割の分散が必要

Q8.2

現状の事務局の負担についてどう思いますか？



Q8.2 (理由・意見)

- ・「大学の量と人数の関係」，「1人の量の関わる量」など
- ・a講演を減らす，時間を減らすなどして2泊3日に抑えることができれば良いと思う
- ・できるだけ外の人にも協力を求められるとよいのでは？お手伝いできたらと思う
- ・ルールを守らない人がいるのが...
- ・運営の手伝いをして，4役や係の人を直接見て思った
- ・規模が大きすぎる，複数大学間での連携，そもそも学生が全て企画，運営する点など
- ・近郊でやりたい
- ・研究に支障が出る
- ・座長の経験で事務局の負担を知った
- ・座長や事務局のマニュアルを充実させ、引き継ぐと良い
- ・参加者の上限を少なくすれば良い
- ・仕事の割り振りを工夫すれば負担軽減できる
- ・仕方ない
- ・仕方なくやるひとの負担は甚大
- ・事務局が毎年変わるので、ノウハウが活かされにくい
- ・事務局の仕事で発表会場から抜ける人がいた
- ・事務局の役職による、会計係、会場係、分科会係はわりと負担が大きい
- ・事務局員でないので
- ・準備時間の長さ、5年周期制は大変
- ・寝不足...
- ・数年ごとに会場固定が良いかも
- ・責任が集中しすぎている
- ・総量が大きだけでなく、個人差が大きいことが問題
- ・妥当
- ・大変なのは分かっている
- ・博士課程の学生の研究時間を削ってしまうのはどうな

のか

- ・負担が大きい事は承知である
- ・負担が大きすぎると思う
- ・忙しく見えた
- ・夜の分科会の運営で体調が崩れた
- ・労力が一極集中している

Q8.3 事務局の負担についてのご意見や、負担の軽減策の提案などありましたらご自由にお書きください。

- ・「天文・天体物理」をもう少し分割する。別の若手の会にする
- ・3年周期に変更で引き継ぎをスムーズにする、その代わり開催地固定のオプションをその年の事務局に与える、規模の小さな大学には当日のサポートに回ってもらう
- ・CとLOSOCは分離したほうが良い。現状は分離しているように見せかけて、実質、座長は事務局の言うことを聞くだけ。座長に責任感なし。いっその事、座長に分科会係の仕事の一部を丸投げして、研究会の一員であるという意識と責任感を持たせた方がよい。参加者に旅費補助をあげないのもありだと思った。努力して得た研究費で来たくするような研究会を目指すのが理想
- ・ss12の引き継ぎは不十分。負担軽減のために引き継ぎは重要
- ・プログラム集を個人で印刷すればよい
- ・ホテルを貸し切れば負担軽減できるのでは
- ・意見も無い
- ・引き継ぎがきちんとされていない、会場での伝達不足があった、参加者の多い大学に固定もしくは修士学生に回す、サポーターは全大学から選出する、参加人数と日数の削減、150人くらいにするとかもいい、大変だと文句言わず腹をくくってやれ
- ・引き継ぎをしっかりとる。テンプレートを残す
- ・引き継ぎ書ではなく、給料を払ってでもマニュアル作りに力を入れるべき、メール3000通のやりとりとか効率が悪すぎる
- ・夏／冬の年二回開催でノウハウを引き継ぎ、開催地を西日本／東日本に分けて遠方参加困難者が減る
- ・夏の学校において総会を行うメリットがあまりよく分かりませんでした
- ・会場のアクセスを良くして、規模を縮小すべき、労力の均等化
- ・会場の固定がもっとも現実的。会場選定、日程決めなどがなくなり、ホテル側との連絡もスムーズになり、効率化するのでは？
- ・会場を大学にする、大学周辺に各自宿泊、大学生協に懇親会の協力をあおぐ、夜の分科会は大学体育館等を借りる会場係の負担が大きいので、そこを東大、京大、名大の3校で回し、他の係か、事務局を他の近くの大学がやれば、会場選びのノウハウが蓄積して、負担が軽減するのでは。あと、ここ10年くらいで、参加人数が急増している原因についての議論がなかった
- ・会場固定
- ・開催地固定すればいい
- ・開催地固定すればいい、小規模大学からの運営サポーター選出の義務化
- ・開催地固定すればいい、担当の5年周期制の見直し、集録事前提出の負担を嫌って参加しなかった博士課程の学生もいる、M1優先をやめた結果博士課程の学生が

減って事実上のM1排除になっている。

- ・開催地固定すればいい(3年か5年周期)、大規模大学に押し付けるのはいかななものか
- ・開催地固定すればいい(マニュアル化できる)、博士課程の学生が参加したい夏の学校が質の向上につながるのでは？
- ・開催地固定すればいい(隔年で変更)
- ・外部にある程度委託はできないのだろうか
- ・確かに事務局の負担はとて大きいと感じるが、これ以上仕事を分担できるとは思えない。現状できる限りの負担軽減はできていると感じる。後は参加者一人一人の気遣いがあれば良いと思う
- ・学業と両立しながら、数百人規模の団体を運営することがそもそも無理に近いと思います。スタッフ一人一人の負担を軽減するために、地域別、分野別に団体を細分化するか、もっとスタッフを確保する必要があるかもしれません
- ・係長の仕事割り振りが大切
- ・講演者数を減らして2泊3日に抑える(アブストでの査読 etc. 招待講演の時間を見直すなども必要か?)、そもそも参加者数自体を減らす、合宿形式の撤廃
- ・合宿形式から学会形式に変更、運営の役割を大学ごとに固定すべき、旅費補助あっても結局宿泊費がウエイトを占めるので宿泊施設は自分で手配させて欲しい、宿泊／食事無しの選択肢の創設を求める
- ・合宿形式をやめる、地域ごとでやるなど、規模の縮小
- ・参加者が多すぎるので、研究分野ごとに夏の学校を分けるか、合宿形式をやめるのが良いと思う
- ・参加者各々に何か担当させる
- ・私の大学を含め、運営に関わっていない大学もあると思うので、そういう人たちに運営側の仕事を教える(理解してもらう)機会を設けると良いと思う
- ・事前の仕事が全く回ってない、中途半端になるなら開催をやめるべき。参加予定も無いのに人手不足でやむを得ず座長に全額負担などの配慮をすべき
- ・事務局、座長の負担が大きすぎる、外部に協力を求めるべき、参加人数を減らしていくべき
- ・事務局のことを参加者に理解してもらうためには、事務局が、参加者のことを理解する必要がある。互いに歩み寄ることが重要。その意味で、来年度の事務局の方針は素晴らしいと思う。一方で、その分、事務局の負担がさらに増す恐れがある。参加者を減らしたいなら、公にその旨を発表してはどうか？
- ・事務局の周期を短く、かつ役割の固定化と拡散をしないといずれ運営が行き詰まる
- ・事務局の方のお話を聞くと、非常に忙しそうで、発表やセッションどころではなかったの、発表等をする方は、やらない方が良いと思う
- ・質の向上は運営のやる事ではない、発表者の所属先の責任、座長団がひどい発表者の所属先に通達で質は向上する、ひとまず所属の責任という形で引き継ぐべし
- ・写真係を特別に設けず、他の係でできたはず(夜の分科会係、ポスターセッションなど)
- ・若手アカデミーの参加に関しての説明など準備不足と思われる部分が多少あったが、運営のための現在の負担量を考えると妥当な気がする。運営の仕事に関しては同じ機関内で担当したほうが効率の良い分野とそうでもない分野があるはずで、緊密な連絡が必要な分野に関しては大きな機関が担当することは仕方がないと思う。全体で担当をローテーションするのではなく、機関の規模に応じて担当する仕事のローテーションを行うのが良いと思う(周期などが違っても)。その中で会場選定をする

グループを作っておき、2または3年周期で会場を回せば十分。また、人数を増やすことによって減る仕事があるのなら、それに関しては、必要な人数になるまで、地域や周期に関わらず担当を増やせば良いのではないか？

・主管された大学の方はお疲れ様です。非情に良い会だったと思うので、縮小するのには反対です。負担は持ち回りということで、「仕方がないのかな」と思っています。他人事ですみません

・集録事前提出のほうが負担は軽いですが、当日の発表内容を変えたい場合に希望者には修正を認めて欲しい

・定員200名くらいにして、査読で足切りすれば良い。参加者数がわかれば負担軽減。

・年によらず固定で良いように思う

・不要な仕事をなくす。受付などもっと簡素に出来るはず

・予算説明がテキトーすぎ、金銭に関わる事は重要で詳細な資料を配布&説明が必要、会計処理がずさんで非常に不透明（民間ならそうはいかない）、若手の会値上げについても触れてない

<講評>

参加された多くの方に、夏の学校の運営と負担について理解していただいたこと、また負担の軽減策に対してもたくさんの提案があり、参加者の皆さんが夏の学校について真剣に考えていただいたことにとっても嬉しく思います。

今後議論をする上で貴重な意見となりますので引き継いでおきます。

夏の学校運営の方法は今後変革していく必要があると感じています。今後も継続的に議論していくので、皆さんからの更なる意見等をお待ちしております。

<9、お気づきのことやご提案など、何でも構いませんのでご自由にお書きください>

・腕章を四役/役員/一般事務局員/サポーターでわけ
るべき、名札が見にくい、ポスターの顔写真は強制にす
べき、食事時間が短い、夜の分科会の会場が狭い、LOC
ニュースが非常に見づらい

・様々な大学や分野の人と交流でき、刺激を受けた。
・様々な試みは素晴らしかったと思う。ポスター会場は
1箇所にとめてほしい。

・夜の分科会は毎日には必要ないと思う。夜の分科会不参
加希望で出したが、同室の人は最後まで参加していた

・夜の分科会の後、部屋の前で話している人がいて迷惑
・発表順が決まったらすぐ教えていただけると助かりま
した(心づもりができました)。

・直接議論の場はとても有意義だった、博士課程の学生
が少なかった(集録提出時期が早まったせい)、夜の分
科会会場が狭かった、a講演の発表者賞の投票は行わな
いのか?、賛否あるがとても良い研究会でした

・総会に対しての事務局の準備が足りなすぎる。今回の
ような総会は時間の無駄。

・総会などで議題を出すときには、事前に入念な準備を
して、配布資料などを作っておくべき。あの場で一から
議論しても話がまとまるはずがないので、事務局側で提
案した案について十分話しあって、結論を事前に出して
おくくらいしておかないといけないと思う。今回の話し
合いは総じて丸投げの印象を受けた

・総会ではyes,noで決められる議題に限定すべき。議論
が必要ならば、各大学などで先に議論をするようにすべ
き。

・集録提出を先にすると、発表内容と異なる場合がある
ので、後日提出がよい。2回提出もあり?

・集録提出を事前に行うのは良いが、5月の終わりだと
M1で提出するのが難しい人も出てくる。

・集録提出の締切が早く、雑なものを書いてしまった。
差し替えをしたい。査読がないのであればアブストの事
前提出で十分だったのでは。

・質の底上げ自体は良いと思うが、「質」の指標を定め、
アンケートなどでそれを評価し、質が上がったか下がっ
たかを判断してからそういう方針を打ち出すようにしな
いと合理的でないと思います。「素晴らしいと思った講
演(複数回答可)」のような項目を設けてみてはいかがでしょうか

・質の向上が一人歩きした、昨年提案するだけして今年
参加しないやり方が気に入らない、総会を夜やっても参
加者は寝たい一心なので真剣な議論にならない

・自身の研究の向上に役立った

・事務局の方、本当にお疲れ様でした。非常に楽しいも
の、充実したものになりました。ありがとうございます

・事務局の皆さん、お疲れ様でした。来年度の事務局の
皆さん、頑張ってください

・残り時間のベルを鳴らす回数は各会場ごとに統一した
ほうが良いと思いました

・参加費が高い。広い会場、査読による参加者の絞り込
みをすれば、日数を減らせたはず。自分の研究の知識が
不足している人が発表をするより、査読で絞込みをし、
発表者不足になる方がよい。また、合宿形式の意義がわ
からない。夜に行ったのは飲み会であり、男が女を囲む
姿が見られた、若手の交流を勘違いしている。執拗に絡
むなどモラルの欠如した者もいた。服を脱ぐ者もいて不

快であった。もちろん交流は大切であり、参加した女性
にも責任はあるが、社会に生きる人間として最低限守る
べきモラルはある。合宿形式をやめれば参加費を抑えら
れるはずであり、飲み会のために合宿形式をとるのは納
得出来ない。参加費、日数の増加は参加者の負担増をま
ねく。また、集録の提出は十分な研究を妨げる。これら
は若手の会の理念に反するものである。次回以降の夏の
学校には参加したくない。夏の学校を取りやめるべきで
ある。

・参加者の名札が見にくい

・参加しにくい大学(先輩が行ったことがない、天文系
の研究室の数少なく、参加するとしたら1人になってしま
う etc.)があること。できたら多くの大学の人と話が
したい。

・座長団の教育、指導をおこなって欲しい。声が聞こ
えなかったり、マイクがハウリングしても直そうとし
なかったりと色々酷かった。プロジェクターを改善して
欲しい。後ろの人までスライドが確認できているのか疑
問に思った。夜の見回りは機能しているのか。7/31夜の
分科会では終了後しばらく騒がしい状態が続いていた。
8Fの廊下などかなりうるさく眠りの妨げになった。総会
の議長がひどすぎる。議長は司会ではないのか。議題提
出者が質問に答えるべき

・合宿形式、夜の分科会は続けるべき。参加人数が多い
ということは、人気であるということ。人気の要因は合
宿形式と夜の分科会。事務局の負担は大きいだろうが、
やるべきことの取捨選択をすれば良い。

・休憩時間の配分が足りていないところがあった、たと
えば田村氏の講演後に細川氏の講演を聴く場合休憩時間
が無いので遅れて到着した結果、冒頭のイントロを聴け
ないという事があった

・間食の販売をしてほしい

・学部生としても多く理解を深めることができたが、同
じ学部生がいないことがやはり残念だった。院試等のこ
とから仕方ない点もあるが、学部生の段階から参加でき
る状況を作ることが必要ではないだろうか

・各会場、食事、懇親会とも満足でした、過去参加した
中で一番良かった

・会場のクオリティはもう少し下げて負担金を下げても
良いかも。若手の会の基本理念として自分の研究内容に
ついてあまり発表機会のないM1などの発表を優先させ
るべきでは?

・夏の学校の目的は、DやDに進学予定のMなどの交流
と、M1の発表の機会という2つの目的に分けられると思
う。質の低下は、論文のreviewなど、M1の発表だけの
時間など、交流になっていない時間が多いためではない
かと思う。実際、M1の中には、大学の伝統で強制的に
参加し、自身の研究自体には役に立っていない人も多い。
本当に交流を求める若い研究者の集まる場と、M1のた
めの場とは分けても良いのではないかと。特に、M1の占
める割合を見ると、M1の発表機会は、全国規模で集まる
必要があるかも微妙だと思う。名札の字が小さい、目立
たないため読みにくい。集録に関しては、査読のための
ものと、実際の発表に基づくものとに分けたほうが良い
と思う

・運営お疲れ様でした。とても楽しませてもらいました。
問題点、改善点も多いと思うので、今後も、より良い夏
の学校づくりに向けて頑張ってください。期待してい
ます

・飲み会の後、外で喋ってる人の声が響いていた。他の
お客さんに迷惑だったと思う。このようなことがあると、
ホテル側から「次は遠慮してください」と言われてしま
うこともあるのかなと思った

・レビューのa講演はいらぬのではないかと。せめてbに
し、自分の研究を発表するものを増やしたほうが良いと

思う。

- ・ポスター会場によっては人が少なく、統一してほしかった。ホテルは貸切のところを選ぶべき。総会の議論が紛糾した場合の対応策を考えるべき。事前情報が少ない。

- ・ポスターアワード受賞者講演はとても良かったが、前日の夜にスライドを準備させるのは酷。座長は博士課程の学生がやるべき、ポスター会場が狭い

- ・ポスターアワードの発表を他の分科会発表と同時に行うのはいかかなものか、宣伝されているぶん不公平、ポスターアワードについては当選したポスターをスクリーンに投影するなどすべき

- ・スケジュールがタイト。受付が混雑した。シャトルバスの受付も混雑。プログラム集が見づらい。

オーラル発表にも各分科会単位の表彰があるとおもしろい

- ・ウェブ上に発表者のスライドも事前にアップロードして手元のPCで参照できるようにして欲しい

- ・いろいろゆるい。もっと参加者を厳しくルールで束縛すべき。それとともに、一般的な最低限のルールを乱す可能性のあるもの、夏の学校のルールを破るかもしれないものは厳しく監視し、ルールを破るならそのようなものを確実に追放しなければならない。事務局もそのような厳格な環境の実現のために何をしなければならないかを真面目に考えなければならない

- ・アンケートもウェブでやったらいい、メールでURLを送れば済む

- ・アンケートが長い。集録の事前提出は質をあげたのではなく、4.5月に時間のあった人を選ぶだけになってしまっていた。査読を行わなかったのは、「質の底上げ」という目的を放棄したようにしか思えない。招待講演が多すぎる。人がみんなそちらに流れて行ってしまい、学生の発表を聞く人が少なかったように思える。宿泊費の振込のメールが遅すぎた。締切日まで3連休をはさんだため、実質振込できる平日が2日しかなかったのは問題

- ・M1を優先しない方針だが座長団任せで効力のほどがわからない、質の向上を負担軽減は両立するのか？、質の向上については所属の研究室の責任（指導があるかないか）だし、満足な指導を受けられない環境に置かれているM1の学生について考えれば良い、集録の事前提出は博士課程の学生が減った→この事実を見ても学生の認識は「厳粛な研究会」ではなく「学生の発表練習の場、交流の場」にすぎないというのは明らかではないのか？、質の向上＝真面目に発表する事つまり先輩が夏の学校の雰囲気や心構えをしっかりと伝える事が大切、しかしその先輩にしてみれば「交流の場」という認識で結局頭打ちになる、だからこそ博士課程の学生が参加したい夏の学校を考えるべし。

- ・Dの学生に参加してもらいたい

- ・「質の底上げ」の方法がM1の研究内容を充実させる、Dを増やすであれば、それぞれ別の対策で考えるべき

< 講評 >

頂いたコメントはまとめて、来年度以降の事務局に引き継いでおきます。